

地域医療支援病院

小田原市立病院

Odawara Municipal Hospital

広報誌

No.19

2024



②③ 病理診断科

④⑤ リハビリテーション室

⑥ 脳神経外科に「外視鏡」を導入! ~県西地域初~

⑦ 新病院が「ZEB Ready」認証を取得しました

⑧ 連携施設紹介

病理診断科

病理診断科とは、組織診断、細胞診断、術中迅速診断、病理解剖を行う部門です。組織や細胞を顕微鏡で観察し、病気の診断を行う専門分野であり、診断結果に基づき、適切な治療方針が決定されます。更に、現在では治療薬の選択にも関与し、特定の蛋白質や遺伝子異常を検査することで、治療薬の選択に貢献しています。

病理検体数の推移

当科には、病理医は常勤1名、非常勤4名、臨床検査技師は常勤3名、非常勤2名が在籍しています。2021年～2023年の診療実績は以下の表に示しました。

年	組織診断件数	細胞診断件数	病理解剖件数
2021	4,173	4,903	11
2022	4,318	4,709	3
2023	4,410	4,458	4

病理診断

病理医が病理診断を行うには、診断用ガラス標本の作製が必要です。手術材料や生検組織をホルマリン固定後に薄くスライス(3-4 μ m)して、HE染色(右図)で細胞を染色し、ミクロの世界を顕微鏡下で観察し、診断が可能となります。近い将来には病理医の補助的診断として人工知能(AI:artificial intelligence)を導入する試みが進みつつあり、病理診断の一助として利活用が期待されています。

細胞診断

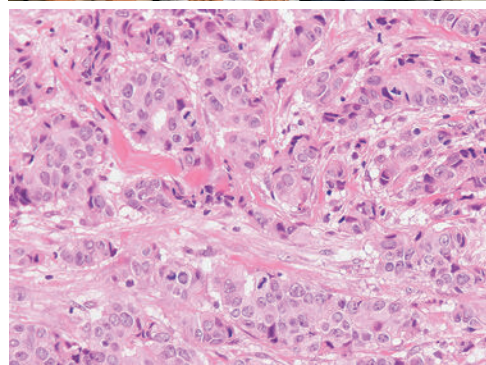
細胞診検査は、悪性細胞の有無や腫瘍の組織学的診断名を推定することが、主な目的とされています。それに加え、婦人科材料のLBC(liquid based cytology)検体を用いたHPV遺伝子解析、体腔液検体では、cell-blockを作製し免疫組織学的検索を可能とすることで、質的診断の向上を心掛けています。

免疫染色

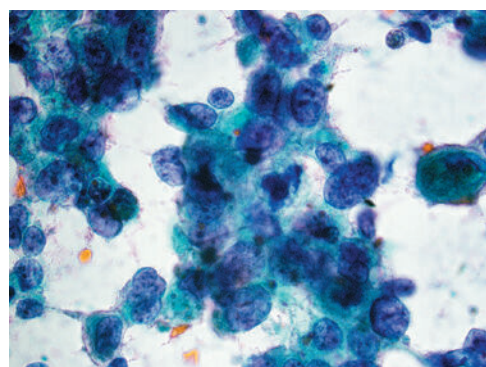
患者さんに正確な診断と分子標的治療薬などの治療薬をいち早く届けられるよう最新の検査機器を導入しました。院内で高精度の結果が早く得られることで、治療方針の決定や治療薬の選定がこれまでよりも迅速に行われるようになり「個別化医療」に貢献します。



マルチディスカッション顕微鏡



癌の組織像(HE染色)



癌の細胞像(パパニコロー染色)



自動免疫染色装置

バイオマーカー検査・コンパニオン診断

21世紀に入る前後で、当該薬剤使用の可否や予後予測のための乳癌のバイオマーカー検査が開始され、現在では肺癌、食道癌、胃癌、大腸癌、子宮頸癌など多くの領域でコンパニオン診断が行われるようになりました。卵巣癌、乳癌では遺伝子検査も行われ、当院では遺伝子検査が適切に行われるように高品質の標本を準備し、外注検査会社と協力して検査に当たっています。

※コンパニオン診断：特定の医薬品の有効性や安全性を一層高めるために、その使用対象患者に該当するかどうかをあらかじめ確認する検査

※バイオマーカー検査：生体内物質を用いて、薬剤の有効性や安全性を評価したり、疾患の予後予測を行ったりするための検査



がんゲノムプロファイリング検査

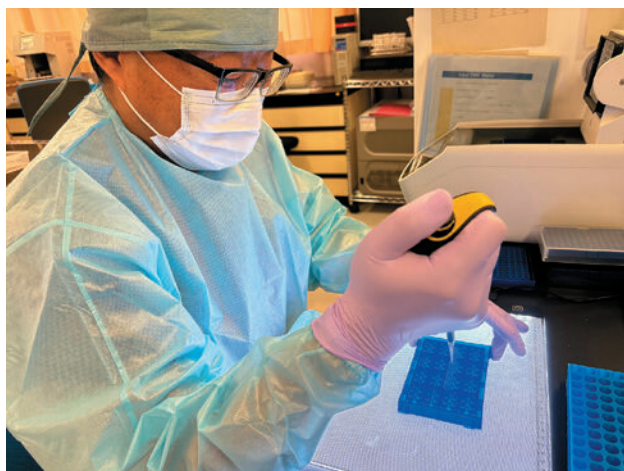
少し以前まで、標準的がん治療が終わるとその後の薬物療法がなくなることが一般的でした。2019年以降、我が国ではがんゲノムプロファイリング検査（俗にCGP検査と言われます）が紹介され、組織や血液の遺伝子変異を検査し、承認薬や治験薬に到達できないか検討することができるようになりました。当院でもCGP検査が施行可能になるように、「がんゲノム医療連携病院」の資格取得を目指し、準備を進めています。



未来に向けた標本品質管理

核酸を抽出する元となるパラフィンブロックの品質を評価するため、現在DNAの質を調べ始めており、新病院ではRNAの質も調べられるように準備をしています。これらの結果を基に、パラフィンブロックの質と保管管理をより向上させ、患者さんがいつ次の遺伝子検査が必要になった時にも、最高品質の組織検体を提供できるように準備して参ります。

※パラフィンブロック：生検や手術で採取された組織や細胞検体を水溶性から非水溶性の状態に置換し、パラフィン（ろうそくのろうと相同のもの）に埋めた組織材料



診療案内

病理診断科の外来診療はありませんが、各診療科にセカンドオピニオンとしてお持ち頂いた組織検体がある場合、当院としての病理報告書を作成しております。その際、お持ち頂いた標本の背景情報を十分に把握するために、前医病理報告書を添付頂きますようお願いいたします。

TEL 0465-34-3175（代表）



HPはこちらから!▲

リハビリテーション室

リハビリテーションとはre（再び、戻す）とhabilis（適した、ふさわしい）から成り立っています。つまり単なる機能回復ではなく、「人間らしく生きる権利の回復」や「自分らしく生きること」が重要で、そのために行われるすべての活動をリハビリテーションといいます。

リハビリテーション室の業務

発症後、早期よりリハビリテーションの実施で、その後の機能回復が早くなることがわかってきました。

様々な理由により、ベッド上から動けないことなどが原因の合併症や身体機能の低下を予防するため、また身体機能の向上と病院からの早期退院に向け、多職種と共同しリハビリテーションを提供しています。

がんのリハビリテーション

日本では、2人に1人ががんに罹患する時代になっています。しかし、早期発見と治療の進歩によって、がん全体の死亡率は減少し、がん生存者数は増加傾向にあります。がん患者さんは病状進行による影響や治療過程により様々な身体症状や精神症状を呈する可能性があります。

がんのリハビリテーションは、先述の症状に対して、機能回復あるいはがんの進行を遅らせ、患者さんの生活の質（QOL: Quality Of Life）を維持・向上するための取り組みです。

現在、当院は、がんの専門的なリハビリテーション研修を修了した計17名のスタッフが共同して患者さんのQOL改善のため、日々、知識を研鑽しながら診療に取り組んでいます。

新生児のリハビリテーション

当院は、神奈川県西地区の2市8町の地域周産期母子医療センターとして、NICU（新生児集中治療室）6床を有しています。

2021年12月からNICUに専従の理学療法士を配置し、小さな生命の健やかな発達を目指して新生児リハビリテーションを本格的に開始しました。NICUには、早産児や低出生体重児、ハイリスク児、先天性疾患を持つ新生児など多くのお子さんが入院しています。当院の新生児リハビリテーションは、多職種でのカンファレンスを行い、情報共有をしながら、呼吸理学療法やポジショニングなどのリハビリテーションを行うことで、4つの機能（生理、自律神経、運動、相互作用）の発達を支援しています。



多職種カンファレンスの様子



NICUでのリハビリテーションの様子

レジデント制度

医師の初期臨床研修医制度は確立されていますが、理学療法士の研修制度は確立されていません。そこで、当院では急性期のリハビリテーションに関する総合的な知識を学べるように2年間のレジデント(研修)制度を設けています。

より良いリハビリテーションを提供できるよう、学会への参加や臨床研究に取り組むなど、自己研鑽に励んでいます。レジデント制度は今年度で4年目を迎え、現在までに6名が卒業しています。



運動に関するQ&A

運動に関して、「やったほうが体にいい」と漠然と知っている方は多いと思います。しかし、そもそもどんな効果があるのか、どのくらいやったらいいのか、何をすればいいのかわからないことも多いと思いますので参考にさせていただきますと幸いです。

Q なぜ運動したほうがいいのか？

A 運動の効果はたくさんありますが、特に重要なのは以下の2つです。

- ①筋力や体力が向上する
- ②高血圧症や糖尿病、高脂血症などの生活習慣病を予防・改善させる
生活習慣病の予防は動脈硬化を予防し、動脈硬化によって引き起こされる脳梗塞や狭心症、心筋梗塞などを生じるリスクを減らすことができます。



Q どのくらい運動したらいいの？

A 成人では1日60分(約8,000歩)以上、65歳以上の高齢者では1日40分(約6,000歩)以上が目安となります。加えて、週2-3回の筋力トレーニングも推奨されています。

Q どんな運動をすればいいの？

A ウォーキングやサイクリングなど、長時間継続する有酸素運動をやりましょう。筋力トレーニングではスクワットや踵上げなど、足の大きな筋肉を鍛えましょう。



Q そんなにたくさん運動できません。どうしたらいいでしょう。

A まずは座りっぱなし避け、家事を増やすなどして今より10分多く活動することを目指しましょう。できる範囲からで結構です。

脳神経外科に「外視鏡」を導入！ ～県西地域初～

小田原市立病院では、より安全に、高度な治療を提供するため、県西地域初の外視鏡「ORBEYE」を導入しました。「外視鏡」は、患者さんの「外側」から術野を撮影する医療機器です。小型カメラの映像を大画面の4Kモニターに映し、3Dメガネによって映像を立体的にします。

脳神経外科の手術

脳神経外科の手術は一般的に長時間に及びます。また、脳の血管は非常に細く、顕微鏡の接眼レンズを覗き込み、拡大した術野を見ながら手術を行う必要があります。そのため手術部位によっては、術者も患者さんも長時間複雑な体勢をとり、顕微鏡で術野を見られるように合わせなくてはなりません。

外視鏡の特徴

患者さんの手術に伴う負担を軽減します

外視鏡はコンパクトな機器のためセッティングがやすく、手術時間を短縮できます。また、小型カメラで可動域が広いため、患者さんが無理な姿勢をとらずに手術を受けていただけるので、合併症リスクの軽減が期待されます。

手術しやすい環境で安全性を高めます

従前の手術は顕微鏡の接眼レンズを覗き込むため、顕微鏡が見れる体勢をとったうえで、術者と助手しか術野を見ることができませんでした。外視鏡は4K大型モニターで拡大した大画面3D映像を手術しやすい体勢で手術チームと共有して見ることができるため、より安全な手術が可能です。また、特殊光観察機能により腫瘍の識別も可能です。



画像提供：オリンパスマーケティング株式会社



モニター画面の画像は模型を使用し、投影しています

新病院が「ZEB Ready」認証を取得しました

(2026 (令和8) 年春開院予定) の設計段階において、50%以上の省エネを達成する「ZEB Ready (ゼブ レディ)」の認証を取得しました。

省エネ計算上の標準的な病院と比較し、一次エネルギーの年間消費量は57%削減されることになり、延床面積20,000㎡を超える大型総合病院においては、全国で最高値です。(2024年8月末時点)

ZEBとは

Net Zero Energy Buildingの略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。達成状況に応じて次の4種類が定義されています。

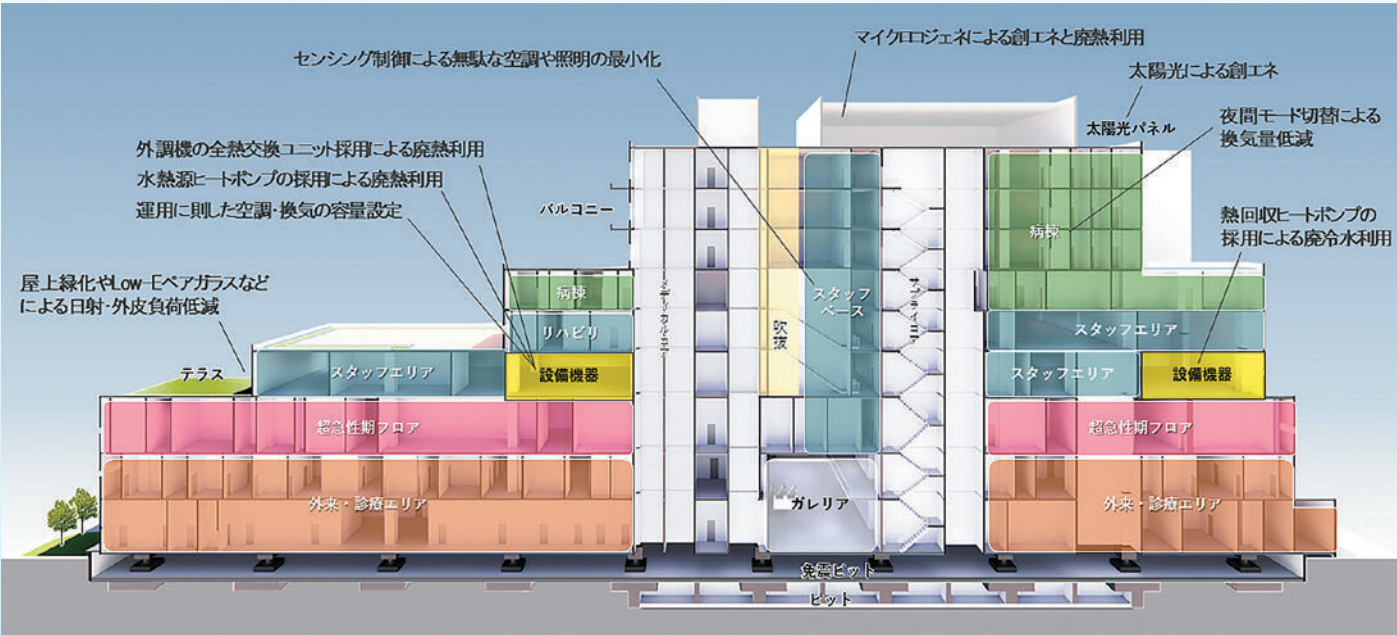


認証ラベル

ZEBの種類		基準値からの一次エネルギー消費量削減率		その他の要件
		省エネのみ	創エネ含む	
ZEB (ゼブ)		50%以上	100%以上	—
Nearly ZEB (ニアリー ゼブ)		50%以上	75%以上	
ZEB Ready (ゼブ レディ)		50%以上	75%未満	
ZEB Oriented (ゼブ オリエンテッド) ※2019年拡充	事務所等、学校等、工場等	40%以上	—	建築物全体の 延べ面積が 10,000㎡以上
	ホテル等、病院等、百貨店 等、飲食店等、集会場等	30%以上	—	

■新病院で採用する省エネ・創エネ技術の概要

- ・高断熱、日射遮蔽、屋光利用など、建築計画的な手法による、エネルギーを極力必要としない技術
- ・空調、換気、照明などの高効率化と省エネ制御の組み合わせによる、エネルギーを上手に使う技術
- ・空調などから出る廃熱を徹底的に利用する技術
- ・太陽光によるエネルギーを創る技術





上嶋 亮
院長

当院は先代院長である上嶋十郎が平成4年に開院した上嶋内科循環器クリニックを継承し、令和3年2月に現在の所在地に移転しリニューアルオープンする形で開院いたしました。

移転開院当初から当院が掲げる目標は変わらず、地域住民の皆様『医療の玄関口』となることです。自身が専門とする循環器領域はもちろんのこと、他領域においても広く内科全般の診療に対応し診断、治療に導く事こそが初診医たる開業医の役割であるという信念の下、日々の診療に励んでおります。

移転開業から早3年が経過しましたが、この地域は小田原市立病院を地域の中核病院として、病-診、病-病、診-診連携が非常に強固かつ円滑である事を痛感しており、それ故に当院も安心して種々の症状の患者様の診療

かみじま内科クリニック (内科・循環器内科・呼吸器内科)

に幅広くあたることができております。

この強みを最大限に活かし地域医療の根幹に微力ながら貢献して参りたいと思いますので今後とも御支援、御指導を宜しくお願い申し上げます。



住 所：小田原市栄町1-5-20大邦ビル2階

電話番号：0465-24-5611

診療時間：

午前 9:00~12:00 (土曜日9:00~13:00)

午後 14:00~18:00

休 診 日：木曜日、日曜日、祝祭日 ※土曜日は午前診療のみ



武井 和夫
院長

武井内科医院 (内科・神経内科・呼吸器内科・循環器内科・小児科)

当院はJR国府津駅から徒歩3分、国道1号線沿いにあります。小田原市立病院OBの父が1984年に開院し、海を臨む場所で地域とともに歩んできました。

現在は私が2代目として一般内科をはじめ糖尿病や高血圧など生活習慣病の他、頭痛やめまい、パーキンソン病、認知症など脳神経内科疾患を診療しています。また、0歳時の予防接種や小児の診療、通院困難な方の訪問診療や看取りを含めた在宅医療も行っています。地域のかかりつけ医として対話を重視し、患者さんの不安解消と的確な診断・治療を心掛けています。

小田原市立病院には、入院治療の必要な患者さんの受入や当地域では同院でしか行うことの出来ない脳血流SPECT検査などで、大変お世話になっています。

これからも住民に身近な医療機関として、誰もが安心して暮らしやすい地域を目指します。



住 所：小田原市国府津4-3-19

電話番号：0465-47-7113

診療時間：

午前 9:00~12:00 (受付時間~11:30)

午後 15:00~18:00 (受付時間~17:30)

休 診 日：月曜日の午後(訪問診療のため)・木曜日・土曜日の午後・日曜日・祝日